

交わりと警告の手紙

2009 年 4 月 4 日

差出人 : 主の回復の同労者たち
受取人 : 主の回復の聖徒たちと諸召会
件 名 : ドン・ユー・ランの教えと実行における逸脱とその分裂的な働きを推進する彼の同労者たちに関する件

今回、主の回復のすべての聖徒たちと諸召会に対して、下記のことを伝えるために、この手紙を書くに至りました。それは、ドン・ユー・ラン兄弟の働きと務めによって引き起こされた深刻な問題が広範囲に急増していることと、彼の同労者がその逸脱した教え、軌道を逸脱した実行、分裂的な働きを推し進めているからです。2005 年 6 月、アフリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカを代表する、主の回復の中の 21 人の同労者たちが、ドン・ユー・ラン兄弟に対して、彼の教えと実行における深刻な誤りと、それらが主の回復の中に引き起こした諸問題（添付文書を参照）に関する懸念を表明する手紙を書きました。ドン・ユー・ラン兄弟と彼の同労者たちにこれらの諸問題を何度も表明しましたが、彼らは自分たちの方向を変えようとする意図が無く、それどころか今や、彼らは間違った分裂的な教えと分裂的な働きを拡大することにますます精力的に成りつつあることが、明白になりました。

最近の数ヶ月間で、メキシコ、スペイン、中央アメリカ、カリブ海沿岸、カナダ、コロンビア、ドイツ、イタリア、スイスで奉仕している兄弟たちが、これらの国々の聖徒たちにドン・ユー・ランの働きに関する警告の公式声明文を出しました。わたしたちは、この文書に書かれている内容に同意し、またそれらを公表することで兄弟たちの負担に同意します。主の回復にあるすべての諸召会は、一つからだの原則の中で、これらの警告文に注意すべきです。わたしたちはまたドン・ユー・ラン兄弟の働きと務めによって起こされた諸問題に関する多くの報告を他の国々から受け取っています。ドン・ユー・ラン兄弟と彼の同労者たちは精力的に彼らの間違った教えを増殖させ、主の現在の回復とは別に彼らの働きを拡大させており、ウォッチマン・ニーとウィットネス・リーを通してわたしたちにもたらされた新約の務めによって興された主の現在の回復に対抗しているので、わたしたちは全ての諸召会と聖徒たちに対して、この交わりと警告の文書を出版する負担を持ちました。

わたしたちは全ての指導者たちと聖徒たちにお願いします。どうか、この手紙を多くの祈りととりなしをもって注意深く読んでくださいますように。特にこれらの教えと実行が広まっている場所にいる指導者たちに、間違った教えに従わないよう聖徒たちに警告し、彼らに使徒たちの新約の唯一の教えを予防剤として与えるようにお願いします。この手紙を受け取る聖徒たちへ、またこれらの教えと実行によってすでに影響を受けてしまった聖徒たちへ、この文書の内容を冷静に何度も祈りながら読んでくださいますように、わたしたちは愛の中で、あなたがたに促したいと思います。

「わたしがマケドニヤへ出発する時あなたに勧めたように、あなたはエペソにとどまっていて、ある人たちが異なる事を教えたり、…することがないように教えなさい」（I テモテ 1:3、4）

「また、あなたがた自身の間から、曲がった事柄を語って、弟子たちを引き離し、自分に従わせようとする者たちが起こるでしょう。」(使徒 20:30)

「さて兄弟たちよ、わたしはあなたがたに勧めます。あなたがたが学んできた教えに反して、分裂やつまずきの原因を作る者たちを警戒し、また彼らから離れ去りなさい。」(ローマ 16:17)

「分裂を引き起こす者には、一、二度訓戒した後、退けなさい。」(テトス 3:10)

逸脱と分裂に至る背景

ウィットネス・リー兄弟は、ブラジルを含めた、南アメリカにおいて主の回復の働きを始められました。1958年と1959年に、彼は台湾の聖徒たちに主の回復の拡大のために西洋に移住するように勧めました。何人かの聖徒たちは、その当時の主の動きのためにブラジルに移住して、リー兄弟の交わりに応じました。ドン・ユー・ラン兄弟も1960年にビジネスマンとしてそこに移住しました。リー兄弟が1965年にブラジルを訪問したとき、ドン兄弟は、当時は大部分中国籍の兄弟姉妹たちで構成されていたサンパウロに在る召会の指導者として、他の兄弟たちと共に奉仕をしていました。リー兄弟は彼らに、地元の人たちを召会にもたらしすべきであると言いました。ドン兄弟が出版した証しの本によれば、「あの当時、わたしたちは現地の人たちを召会にもたらしできませんでした」。と言っています。1970年の初めに、「主はチャン・ウー・チェン兄弟をブラジルに送り、それが地元の人たちを召会にもたらし扉を開きました」(中国語から訳された、ウィットネス・リー兄弟による「歴史と証し」に記録されたドン・ユー・ラン兄弟の証し、p 272) チャン・ウー・チェン兄弟は何度もブラジルを訪れ、サムエル・チェン(チェン・パオ・チイ)兄弟もリー兄弟によって遣わされそこで生活し働きました。その当時、彼ら二人は多くの特別集会を持ちました。1977年にはドン兄弟も同様に特別集会で語り始めました。

1985年以前、南アメリカにおける主の回復の拡大は、ニー兄弟とリー兄弟の務めの出版物、特に創世記と出エジプト記のライフスタディを通して行われました。1984年にリー兄弟はブラジルを訪問した時、聖徒たちがライフスタディを使っていることにととても良い印象を持ちました。この実行は、この地上で回復のすべての諸召会がキリストのからだの共通の交わりにあずかり、時代の務めを享受し、一つ思いで主の動きを遂行していく決定的に重要な実行と符合していました。そのような実行は、キリストのからだを正当に代表しており、神が現される祝福の扉を開くこととなります。南アメリカにおける諸召会、務め、働きは主の回復と一つであるという程度にまで、その当時、彼らは健康な状態で守られ、成長と増し加わりを享受しました。わたしたちは、リー兄弟が言ったように、ドン兄弟と他の兄弟たちが南アメリカにおける主の回復の初期の時代に福音の拡大において貢献したことを認めます。しかしながら、あの時以来、ドン兄弟の働きは、リー兄弟が1984年に推賞した教えと実行においてますます逸脱しました。

ドン兄弟と彼の同労者たちは、彼が南アメリカでの働きの源であったと主張しています。これはまったく正確ではありません。南アメリカにおける働きは彼より前にあったし、南アメリカの多くの諸召会は、彼の働きによって生み出されたものではありません。事実、1991年にリー兄弟は、彼がブラジルとアルゼンチンの諸召会の「監督者」である印象を他の人たちに与えないように強く命じました。ところが、ドン兄弟と彼の同労者たちは南アメリカにおける諸召会の「使徒」であり、また「父」とであるとさえ言っ

て、彼の権威をますます主張しています。

何年にもわたって、ドン兄弟と彼の同労者たちが主張してきたのは、南アメリカにいる聖徒たちと諸召会に奉仕するために、南アメリカ以外から同労者たちを招待してはいけないとリー兄弟がドン兄弟に繰り返し話したということでした。彼らはこの主張に基づいて、南アメリカの諸召会と聖徒たちを主の回復における全体的な務めと交わりから孤立させました。これらの主張が南アメリカを導く事に関するリー兄弟の表明でなかったことは、リー兄弟が語られた事と、出版された務めの書物から明らかです。1960年から彼が召される1997年までの多くの出版された書物において、リー兄弟は、全地の主の回復における諸召会に対して、同労者たちによる訪問を含んだ、からだの交わりにおける自由で完全な循環があることを願っていたことがわかります。1985年から1995年の間、特にリー兄弟は、南アメリカで務めをする同労者と聖徒たちの必要を繰り返し語られました。これらの奨励の多くは彼の書物の中にあります。ここに二つの例証を挙げます：

中南米のすべての国は真理に、特にわたしたちの間にある真理に開いています。わたしたちが中南米に200人の全時間奉仕者を遣わしたとしても、十分ではないでしょう。至る所で、真理を求める叫び声が鳴り響いています。(1985年に語られた「神のために語る」p.11)

中央アメリカと、プエルトリコ、ベリーズ、その他を含むカリブ海地域と、南アメリカでの門戸は、至る所で開かれており、そこに行く人たちがが必要です。(1994年に語られた「神のエコノミーと神・人の正常な生活の概観」、p.92)

以上のような例証は、他にも多く与えられました。リー兄弟の交わりに反して、ドン兄弟と彼の同労者たちは、南アメリカの多くの諸召会が同労者を受け入れることや、主の回復の諸召会の共通の交わりにあずかることを妨げてきました。それどころか、彼らはそれらの諸召会を彼らの働きと務めのために自分の所有としました。そのような自分の働きと閉ざされた交わりは、キリストのからだの原則に反するものであり、いつも不和と分裂という結果になります。

そのような孤立の状況の中で、ドン・ユー・ランの下でブラジルを中心とした働きは、真理と実行の両方でますます逸脱したものとなりました。1985年の初期に、ドン兄弟は再翻訳を始め、主の回復における務めを変えてしまい、ウォッチマン・ニー兄弟とウィットネス・リー兄弟による新約の務めをもって聖徒たちを養うのではなく、彼自身の語ったものを出版しました。自分の行動を正当化するために、彼はリー兄弟の務めを「消化」するのに、南アメリカの人たちが自分を必要としていると主張し、それらを彼らが理解できるよう単純化した形で提示しました。ですから、ウォッチマン・ニーとウィットネス・リーの務めは、狡猾にドン・ユー・ランの語りかけと出版物によって置き換えられて、ブラジル、その他の国々と彼の働きが広まった大陸における大部分の諸召会の主要な食べ物となってしまいました。ドン兄弟は「Editora Arvore da Vida」を設立し、それを用いてニー兄弟とリー兄弟の書物を翻訳し出版し、彼自身の独特な見解を広めました。

何年間にもわたって、リー兄弟は個人的にドン兄弟に対して、彼の異なる語りかけ、彼の出版の働き、彼の聖書的でないビジョンと啓示、彼の地域の孤立した働き、さらに南アメリカにおける諸召会に対する彼の支配権の行使に関して警告しました。例えば、1991年にリー兄弟は、権威の乱用、地域主義、原則に沿わない出版の働きなどの問題を、個人的に、また同労者たちとブラジルから来た兄弟たちの前で、ドン兄弟に言わざるを得ませんでした。1990年代半ばに、リー兄弟はドン兄弟に、何人かの同労者がいる前でブラジルに行かないように、行くならドン兄弟の働きを建て上げてしまうからと言いました。ドン兄弟と彼の同労者たちは、リー兄弟の叱責と矯正の交わりを受け入れず、むしろ間違いを続けました。2005年、フランシス・ボール兄弟は、リー兄弟がドン兄弟に直接、「ドン兄弟、あなたはわたしが行っていることを南アメリカで行っていない」と言ったと、ドン兄弟の最も親密な同労者の4人がいる前で、同労者のグループに詳しく説明しました。

リー兄弟が亡くなった1997年以来、ドン兄弟の教えと実行はさらに逸脱と分裂的になっていくことが明らかです。主の回復にある多くの同労者たちによる繰り返しなされた忠告にもかかわらず、書物においてもパースンにおいても、ドン兄弟と彼の同労者たちは彼らの教えと実行において少しも変わっていません。それはドン兄弟の働きによって引き起こされた問題の増加によるものであり、2005年の6月、21人の同労者たちが、すべての同労者のために彼の教えと働きに関して深刻な懸念を表現する個人的な手紙をドン兄弟に書きました。ドン兄弟は、兄弟たちの交わりを受け入れるどころか拒絶して、彼の公の語りかけの中で手紙の語調と内容を誤って伝え、その手紙を書くことによって同労者たちは聖霊を冒とくしていると指摘しました。最近の数年間で、ドン兄弟と彼の同労者たちは彼らの権威の主張を強化しています。また彼らは数多くの公の声明文を出し、諸召会、務め、主の回復の働きと張り合う、さらに対抗する働きにおいて多くの行動をしてきました。1984年にリー兄弟は、ブラジルの聖徒たちの務めに対する食欲、生み出された諸召会への増し加わりについて積極的に語りました。この語りかけを、ドン兄弟と彼の同労者たちは、ドン兄弟の教えと実行における現在の逸脱を承認するものとして繰り返して伝えてきました。

ドン・ユー・ランの教えは、すべてのクリスチャンの根本的な信仰の最も基本的な原則のいくつか（新約聖書の著者の神聖な靈感を含む）を直接破る点にまで逸脱しました。加えて、彼の教えは、使徒たちの務めと教えの地位、キリストのからだの一、からだを建造する一つの働き、地方召会の正当な立場に関する重大な間違いを含んでいます。

ドン・ユー・ランと彼の同労者の間違った教え

何世紀にもわたって、主の回復の前進は常に真理に基づいてきました。その霊と神聖な命の経験は、わたしたちの真理の正当な解釈に堅く基礎づけられています。主の回復における召会生活の実行において、わたしたちは真理に対して絶対的であり、パウロやヨハネによって教えられたように（II テモテ 2:15、III ヨハネ 3:4、8）、真理の絶対性を保持しなければなりません。わたしたちは真理がわたしたちを過ちから保護することを知っているので、真理の道を取るべきであり、いかなる事でも真理において妥協すべきではありません（II ペテロ 2:2）。真理を軽視するいかなる教えも危険であり、わたしたちはそれを

受け入れるべきではありません。

ある人は、わたしたちはその霊にだけ注意を払うべきであって、原則には注意を払わない、とさえ言いました。何と狡猾でしょう！ 真理を認識している者は、これがその霊だけを受け入れ、聖書を拒絶するという意味であることを知っています。すべての原則は聖書から出ているのです。その霊だけであって、御言の原則がないと言うのは非常に危険です。（「真理メッセージ」 p.5）

さらに、新約におけるリーダーシップは、実は神の永遠のエコノミーに関する真理の支配するビジョンです。

新約の務めのリーダーシップは、実行上、一人の管理する者のリーダーシップではありません。主の回復において、わたしたちは一人の人が、人や物事を管理するという観念を拒否します。わたしたちには幾らかリーダーシップはありますが、それは一人の管理する者のリーダーシップではありません・・・リーダーシップは、主の回復の中で管理するたった一人の人のリーダーシップではありません。主の回復の中のリーダーシップとは、わたしたちを制限し、導き、制御して、混乱と分裂を避けることのできる神の与えられた啓示のリーダーシップです。（「新約エコノミーを実行するための神の定められた道」 pp.255-256）

新約聖書の著者の靈感と権威を台無しにする：2005 年、2 月のエスタンシア 「Arvore da Vida」での彼の国際的な特別集会において、ドン兄弟は、マタイ、マルコ、ルカが福音書を書いたとき、「彼らは霊の中にいなかった」と語りました。21 人の同労者たちは 2005 年、6 月の彼らの手紙の中で、この語りかけに関してドン・ユー・ランに強く忠告し、そのような語りかけは新約聖書の初めの 3 つの福音書の神聖な権威と神聖な靈感においてさえ深刻な疑いを投じると指摘しました。同労者たちは彼らの手紙の中で次のように書きました、「全聖書は、聖書自身が確証しているように、神の聖霊によって靈感を受けたものであるというのが、これまでの主の回復におけるわたしたちの証しでした。マタイ、マルコ、ルカがその霊の中にいなかったと言うことは、全くクリスチャンの真理に反するものです。わたしたちはみな、わたしたちの間でのこのような語りかけを拒絶し、罪定めしなければなりません。」

同労者たちの忠告にもかかわらず、ドン兄弟は、新約聖書の大きな部分を軽視し、新約聖書の著者たちの権威を台無しにする方法で語り続けました。例えば、2006 年に、彼は、「十二使徒すべて」は「内住の命と霊を無視して、彼らにとって最も益となるように」主から受けた訓練を適用したと語りました。2007 年に、彼はマタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書が「伝統的で法理的」であると言及しました。同じ 2007 年に、彼はまた繰り返し、ペテロとパウロの務めについて、ペテロの務めは「伝統的」で、パウロの務めは「法理的」であったと低く解釈しました。リー兄弟は「法理的」という言葉を、信者たちが神の有機的な救いを享受できるための資格と立場を与える手続きとしての贖いを言及するために用いたのですが、ドン兄弟は、「法理的」という言葉を、「教理的」、「合法的」、「文字において」という意味で用いています。ドン兄弟によれば、パウロの務めは法理的であったので、真理について議論するために人々を思いの中にもたらししたというのです。2007 年の秋、エスタンシアでの国際的な特別集会で、ドン兄弟は次のように言いました、

神が彼「パウロ」に委託したものは神の新約でしたが、彼は書簡を法理的な方法で書き、それを諸召会に送りました。彼は召会において実行する道を解き明かすことに失敗しました。ですから、彼は神からの委託を失い、神は彼を去らせました。後になり、彼はローマの王子、ローマの軍隊によって殺されました。わたしたちは、彼の法理的な務めはその時に終結したとすることができます。

パウロの書簡に対するドン兄弟の評価は、ペテロの書簡での言葉と矛盾しています。その中で、彼はパウロの書物を推薦して、「彼のすべての手紙」は「聖書の他の部分」のように見なされるべきであると言っています。(II ペテロ 3:15,16)。

ニー兄弟とリー兄弟の「法理的」な務めを置き換える：ドン兄弟は、神はペテロとパウロが殺されるのを許されたのは、彼らの「伝統的」で「法理的」な務めがそれぞれ終わらされるためであったと教えました。さらに彼は、ヨハネの務めは「有機的」だったと教え、この「有機的」な務めだけがこの時代の終わりまで継続し得ると教えました。ドン兄弟は、今日、彼と彼の同労者たちだけがヨハネの霊と命の「有機的」な務めを遂行していると主張しています。使徒たちの教えと務めに対するドン・ユー・ランの中傷は、ニー兄弟とリー兄弟の新約の務めを彼自身に置き換えて、それを正当化するために用いられ、そして彼が彼らの務めをくつがえす権威と彼自身の教えの優越性を強く主張します。彼と彼の同労者たちは、ウォッチマン・ニーの務めは「法理的」であった、パウロの「法理的」な務めのようなウィットネス・リーの「法理的」な務めは、もう「過ぎ去った」、回復における「古いメッセージ」は「教理的」なものである、「法理的」な回復の中の聖徒たちは思いの中で真理を学んでいるので、魂を否んでいないと主張しています。このような点に基づき、ドン・ユー・ランと彼の同労者たちは、もはやニー兄弟とリー兄弟のメッセージは今日には適用できないと主張し、ドン兄弟が教えるものが「現にある真理」であると主張しています。

ドン兄弟による「有機的」な回復を弁護し賞賛する：ドン兄弟と彼の同労者たちは、彼とブラジルにある諸召会は「法理的な回復」を離れて、「最後の回復」である「有機的な回復」となったと主張します。彼は、他の回復の残りが「法理的」な領域にいる中で、南アメリカだけが神の委託を遂行していると主張します。ドン兄弟は、ニー兄弟とリー兄弟よりもさらに高く、さらに先に行ったと言い、彼の務めはヨハネの「有機的」な務めの唯一の継続であると言います。

異なる「ビジョン」と教えを増殖させる：ドン兄弟と彼の同労者たちは、聖書の中の神聖な啓示の一部でない異なる教えを増殖させています。例えば、彼は、聖書的にも歴史的にも根拠がないのに、使徒ヨハネはエペソにいたとき、パウロの十四の書簡を見つけたと教えます。彼は、ツラノの講堂でのパウロの教え（使徒 19:9-10）が「主の御名と御言の生ける接触のために置き換えて」真理を学ぶことになったと強く主張します。南アメリカにいる青年たちは、「アジアの諸召会を助けるためにパウロが取った道と、2年間、毎日ツラノの講堂で教えていた教えは十分ではなかったと教えられました。この理由で彼の最後の書簡において、彼は「アジアにいる者たちはすべて、彼を離れ去った」ことがその道の結果であると記録しています。このような教えは、人々に真理の学びを軽蔑させます。ドン兄弟の同労者の一人は、

信者たちは使徒行伝第 17 章のベレアの人たちが聖書を「表面的に賞賛すること」によって間違っ導かれていたと教えました。事実、彼は、ベレア人たちがパウロの教えたことがそのようであったかを「聖書を毎日調べていた」ので神の祝福を失ったと強調しました。これは使徒行伝第 17 章 11 節と 12 節の明白な言葉と矛盾します。そのような教えは聖書の権威を台無しにし、聖書的な根拠のない逸脱した教えを正しく判断しないで受け入れることを奨励してしまいます。

ドン兄弟は、世界地図の大陸の地形に基づいて「啓示録第 12 章のビジョン」を受けたと主張しています。この「ビジョン」はドン兄弟と彼の同労者によって広く推進されてきました。その結果、ドン兄弟の役割を高く上げることになりました。例えば、ドン兄弟による啓示録第 12 章の解釈が、南アメリカに今もまた終わりに至るまで神の動きの中心となる役割を与えています。彼は、南アメリカは「荒野」となり、そこで神の民が大艱難の間の逃れ場を見いだすと教えました。世界地図に基づいて、ドン兄弟は、ヨーロッパとアジア大陸を一緒にした形は龍と形が似ていると教え、アフリカの地形は胎児の形に似ていることを主張し、それは、アフリカが啓示録第 12 章にある男の子を生み出すのに特別な関係があることを示しました。このことに基づいて、彼は、南アメリカはドン兄弟の務めを押し広め、アフリカで働くための特別な委託がある、と主張しました。この教えを描写するために作られた地図では、南アメリカは、ドン兄弟の出版社の銘柄であるブドウの房として描かれており、彼の務めが全地の食物の源であることを示しています。2007 年 11 月、ボストンでの特別集会で、ロン・カンガス兄弟は、ドン兄弟と彼の同労者たちに、この教えを止めるように公に嘆願しました。ロン兄弟は次のように言っています：

最後に、わたしはこの教えを活動的に広めている責任のある人たちに、心の痛みをもって愛の中で訴えます：「どうか止めてください。主の回復と愛する聖徒たちを伴うすべての召会の益のために、止めてください」。特にわたしはこれ（世界地図の風刺画）をリー兄弟に見せた人に、リー兄弟はその人に命じて「これをだれにも見せないように」と言ったことを訴えます。(Ministry Magazine, vol. 12, no. 3, 2008 年 3 月, p. 163)

ちょうど七週間後、ドン兄弟はロン兄弟の警告を無視して、彼の「ビジョン」をペルーのリマにおける特別集会で繰り返して語り、拡張させました。この語りかけの中でドン兄弟はこう言っています：

聖書はわたしたちに、龍は宇宙的な女に対して怒り、それゆえ彼女を殺そうとしたと言っています。まず、それは地中海の水を溢れさせ、沿岸の地域を洪水にさせました。このことのゆえに、諸召会を示す女は死にました。主に感謝します。聖書はまた、開始があったことを告げています。神はジブラルタル海峡を開かれました。それは水が海に流れ出すためです。地中海は決して満たされることはありません。なぜなら、ジブラルタル海峡が開かれたからです。龍が、その女が死んでいないのを見たとき、彼女を殺すため捜し回るでしょう。

ドン兄弟の語りかけでの一つの共通の主題は、彼自身の働きと彼の働きの下にある召会を高く上げることです。彼は、ブラジルの諸召会だけが「有機的」な段階へと前進し、「神はブラジルにある諸召会だけが神の言葉を実行に移すことを知っておられたので、神の最高の目的を南アメリカの諸召会に啓示され

た」と主張します。2006年の秋、エスタンシア「Arvore da Vida」における国際的な特別集会で、彼は宣言しました、「主に感謝します。神はバアルに膝をかがめない7千人を取っておかれました。ハレルヤ！南アメリカにいるわたしたちのゆえに、ハレルヤ」。ドン兄弟は、彼の「ビジョン」と奇妙な解釈を用いて、全地の主の回復における一つの働きと一つの交わりから完全に独立した彼の教えと働きを地球規模で拡大させることを正当化しているのです。

ブラジルから全地にわたる使徒職の権威に対する彼のおこがましい主張を拡張する：委託を受けている範囲に関するドン兄弟主張は、ブラジルから南アメリカ、スペイン語圏の国々、ラテン語圏の国々、そして今日この全地上に拡張されました。彼は、リー兄弟は彼に南アメリカで働くように言ったと何度も主張しましたが、それが真実ではないことは、わたしたちの多くの者が個人的にも証しすることができます。リー兄弟も彼にブラジルでの働きを「与え」ませんでした。そのようにすることは、主の働きに関してリー兄弟が教え実行した聖書的原則に反することになったでしょう。リー兄弟は何人もの兄弟たちに特定の地で労苦するよう求めましたが、彼は決してその地の部分を彼らに「領地」として与えたりはしませんでした。彼がいつも教えたのは、主の回復におけるすべての同労者は交わりと組み合わせの中で、主の回復の一つの働きのために共に労苦すべきであるということでした。

もう一つの分裂の隠された要因は、分離した領域を保とうとする傾向です。神の永遠のエコノミーを完成するための主の働きと動きは、唯一無二です。もしわたしたちが主の唯一無二の働きにあずかっているどの地域をも、自分の特定の領域であると考えたら、これは分裂の原因、あるいは要因となります。（長老訓練第十巻、「長老職と神の定められた道」(二)、p.11）

1991年、7月6日の長老集会にドン兄弟は出席していましたが、その中でリー兄弟はこう言いました：

わたしが気がかりなのは、主の回復の中で、ある国の兄弟たちはその地の働きが自分たちの働きであると考えているかもしれないということです。また別の国のある兄弟たちはその働きが自分たちの働きであると考えているかもしれませんが・・・不正常である実際の状況があり、またその不正常さの最大のポイントは異なる働きであるということです。（「長老職の再考慮、働きのある地区、キリストのからだを顧みること」 p. 19）

次の日、ドン兄弟と他の兄弟たちが南アメリカの問題を発言した集会の中で、リー兄弟はこう言いました：

真理に従えば、キリストのからだは一つです。わたしたちはからだの一を保たなければなりません。これはエペソ人への手紙第4章2節から4節にあります。あなたはその霊の一を保たなければなりません：一つからだ一つ霊です。その霊の一を保つとは、からだの一を保つことです。明らかにことですが、多くの小さな地域を持つことは、一を保ちません。

同じ語りかけの中で、リー兄弟はドン兄弟が南アメリカで不一致の原因となっていることを非難し、直

接彼に言いました：

あなたがブラジルとアルゼンチンの諸召会の監督であるという印象と、彼らがすべての事であなたの許可を求めなければならないという印象を、与えてはいけません。

リー兄弟が亡くなられた後、ドン・ユー・ランは地球の異なる地から来た二人の兄弟に、すべてラテン語圏の国々の働きをわたしの領域として認識していることを、わたしたちでこの地を三つの働きの地域に分けるように提案しました。聖書の中にも、主の回復の歴史においても、そのような分裂的な提案には前例がありません。それは唯一の神聖なエコノミーを遂行するための一つからだの原則、一つの務め、一つの働きを無視しています。彼の提案が拒絶された後、ドン兄弟は彼が主張した委託の範囲をさらに拡大しました。今日、彼は活動的に彼の働きをアフリカ、ヨーロッパ、日本、北アメリカと南アメリカで広めています。

分裂の実行を正当化する間違った教え：ドン兄弟は聖書のゆがんだ解釈を発展させて、彼の分裂的な働きを正当化しました。例えば、ドン兄弟と彼の同労者たちは、彼と彼の教え、彼の「オリエンテーション」（すなわち、ドン兄弟によって与えられる指令）に従う聖徒たちと諸召会だけが「ヒラデルヒヤ」とあると主張します。そのように実行しない人たちは「ヒラデルヒヤ」の立場を離れ、「ラオデキヤ」になっており、さらに、彼ら「ヒラデルヒヤ」の人たちは「ラオデキヤ」の人たちと接触を持つべきではないと教えます。この教えは、少なくとも四大陸における聖徒たちと諸召会の間で分離した輪の交わりを産み出し、諸召会から聖徒たちを排除し、すでに地方召会がある多くの都市において分離した第二の「パン裂き集会」を設立して、異なった対抗する働きを是認するために用いられました。またドン兄弟と彼の同労者たちは、個人や諸召会に反対して公に間違った訴えを起し、書物の中で、また私的な会話の中で聖徒たちの信頼を壊して、存在する諸召会と導く人たちから彼らを引き離しました。

主の回復における同労者たち、働き、務めに対する批判：ドン兄弟と彼の同労者たちは、多くの虚偽の邪悪な報告を広めることによって彼の務めの優越性を立証しようとします。彼の同労者たちは彼らの交わりの企てが、リー兄弟がまだわたしたちと共にいて務めを行っていた 1994 年以来ずっと妨げられてきたと不平を言います。実は、数多くの交わりの企てが、リー兄弟が召される前から、またその後も何年間もなされてきました。同労者たちの間での一を実行するよりも、ドン兄弟と彼の同労者たちは、最も軽蔑した言葉をもって彼らに反対して語り、根拠のない虚偽の訴えを、彼らと同じ働き人たちと諸召会の責任者たちに対して、彼らの語りかけの中で、また電子メールによって広げました。

ドン兄弟と彼の同労者たちは、リビング・ストリーム・ミニストリー、「回復訳聖書」、「朝ごとの食物」、国際的な特別集会と訓練集会、全時間訓練、主の回復における出版の働き、長老たち個人と同労者たちに対して数多くの虚偽と邪悪な訴えを起しました。しかしながら、彼らが反対しているこれらの事柄は、リー兄弟の導きの下で開始されたものであり、今日の回復全体にとって豊かな祝福の源となっています。

他の多くの奇妙で逸脱した教えは、これまでに挙げた間違いと偏った見解から出てきたものです。例えば、ドン兄弟と彼の同労者たちは、自己から解放されるために必要な実行として、体を揺らしたり、跳び跳ねたり、踊ったり、「行列をつくって歩きまわったり」、「タップダンス」をすることを推進しています。彼は、「その霊で満たされる人はだれでも跳び跳ねたはずである」、また「跳び跳ねていないなら、その霊で満たされていない」と教えます。彼はそのような活動を正当化して、「聖霊はわたしたちを導いて、新しいものを持たせる」と言います。

今日のドン・ユー・ランの実行と働き

ドン・ユー・ランが階級制度と個人的な権威の主張に基づいて個人的な追従者を建て上げる：ドン兄弟の働きにおける権威の行使は、リーダーシップに関する聖書の啓示と主の回復におけるわたしたちの実行と全く対照的です。新約のリーダーシップは自分の所有としてその人に与えられるのではなく、使徒たちの教えにおいて与えられるのです（使徒 2:42、テトス 1:9）。したがって、主の回復において、同労者たちはどんな個人的な追従者も育んだりしません。公式に、あるいは組織的に個人的な追従者を持つ代わりに、わたしたちは主の奉仕者によって供給される神の永遠のエコノミーの健康な教えに従います（1 テモテ 1:4、6:3）。聖書の中の啓示によれば、だれもキリストご自身以外にどんな個人的な権威を持つ者はいません（マタイ 28:18）、彼だけがからだのかしらです（エペソ 4:15、コロサイ 1:18）。召会は神聖な伝達を通して昇天したキリストの権威にあずかります（エペソ 1:19-23）。この権威が遂行されるのは、からだの肢体の間で命の相互の供給においてです（エペソ 4:15 後半-16）。からだの三つの面すべて、召会、務め、働きには、組織も階級制度もなく、ただ神聖な命の交わりの中で相互の分与があるだけです。

ドン兄弟と彼の同労者の実行はこれら三つの原則を破っています。彼らは、まず神、次にキリスト、そして「使徒」、最終的に長老という構成からなる権威の階級制を教えました。彼らは「使徒」、ドン・ユー・ランにおいて絶対的に近い権威を与えられています。彼らは、「もしドン兄弟に逆らうなら、あなたは神に逆らっている」と教えました。彼らは、「使徒のオリエンテーション（文字通りには指令または命令）」を遂行するために働き人と長老の階級制度を設立しました。兄弟たちは「国家的な同労者」また「地域的な同労者」として任命されます。長老たちの間では、ある地方の中で、ある人が「第一長老」として立てられるかもしれません。そのような案配は組織的であり、階級制度であり、キリストのからだの有機的な性質とは正反対です。ドン兄弟の働きにおける階級制のどの段階にも、責任を担った人たちは、上にいる人たちの命令に従うようになっており、そうでないと除名される危険性もあります。多くの働き人と長老たちは、「使徒と一つ」でないために辞めさせられました。

ドン・ユー・ランと彼の同労者たちは、彼の権威に対し無条件の降伏を強調し、彼らの働きを批評するどんな人たちをも脅迫しようとしました。一方で、彼らは、ドン兄弟の命令（指令）に従う限り、正しくても間違っている、神の前での成果の責任は全くない、と教えました。この教えは聖徒たちの良心を破壊するものであり、真理からの見境のない逸脱を人々に感じさせました。もう一方で、ドン兄弟と彼の同労者たちは、彼らの教えと働きに関して心配を現す人は誰でも、聖霊を冒とくする許されがたい

罪を犯してしまう、と繰り返し言いました。他の人たちに恐怖感を植え付けるために、彼らは、ドン兄弟と一でない人たちの上に起こる神の裁きの例証として、ある聖徒に降りかかった悲劇を用いました。ある聖徒たちがドン兄弟の務めから離れた時は、ドン兄弟と彼の同労者たちによって彼らは呪われました。他の人たちは、個人の失敗に関して、訴えられた人や彼らの家族に対するダメージの心配をせずに、叱責者をでっちあげたり、何年も前にすでに対処したことを取り上げて責め立てるような、邪悪な試みで服従させられました。わたしたちはそのようなすべての不正、自己奉仕、非難する語りかけを拒否します。

ドン・ユー・ランと彼の同労者たちが遂行する隠れた、人をだます、独立した働き：導く兄弟たちや、同労者たちと交わることなしに、ドン兄弟と彼の同労者たちは、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、日本国内を訪問し、その地方の諸召会の聖徒たちと私的に接触を持ち、彼らをドン兄弟の務めに従うように誘惑しました。彼らは、彼らの働きと個人の聖徒、また召会との間に私的な関係をはぐくんで、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパで持たれる回復の中での特別集会と衝突するよう（参加できないよう）に集会を持ち、彼ら自身の特別集会を計画し、彼らは、ドン兄弟に従う聖徒たちを主の回復の中の諸召会間との一般的な交わりからの分離、維持できるようにしました。

多くの場所で、そのようにすべきでないと、諸召会の責任を担っている兄弟たちから直接の要求があるにもかかわらず、彼らは隠れてドン兄弟の出版物を広めました。そのようなことが起こった合衆国の場所は、イリノイ、メリーランド、バージニア、ニューイングランド、とフロリダでした。ドン兄弟と彼の同労者たちは、彼らの逸脱した教えを彼の文書を通して、アフリカ、ヨーロッパ、日本、南アメリカと同様に、北アメリカにも広げようと同じように試みました。最近、ドン兄弟と彼の同労者たちは、多くの若い人たちを集め、「(宗教関連の) 書籍商売人」(各地を訪問して本を売り歩く人)として奉仕させ、全地に彼の教えを広めようとしています。

ドン・ユー・ランと彼の同労者たちが実行する分裂：ドン兄弟の働きの究極の結果は分裂です。四大陸、十二ヶ国の三十以上もの都市で、ドン兄弟と彼の同労者たちは、地方召会が正当な立場ですでに集会しているところで、彼ら独自の「召会」と「パンさき集会」を設立しました。このことだけでも、ドン兄弟と彼の同労者たちの働きは、主の回復の中で主の權益を顧みるすべての人たちによって拒絶されるべきです。この実行は、ニー兄弟とリー兄弟が主の回復の実行における基礎的な真理として教えた、新約の基本的な原則である一の立場を犯しています。

わたしたち自身の願望にしたがって諸召会を設立することは、最大の罪です。わたしたちは、他のどんなことよりも、教会を設立することを恐れなければなりません。兄弟たちよ、わたしたちは厳粛さがわかるのでしょうか？思うがままに教会を設立することほど悪い事はありません。わたしたちはどんなものでも設立することができます。しかし、わたしたちは決してこのように教会を設立してはなりません。なぜなら、この事はキリストのからだの問題とかかわりがあるからです。わたしたちは主の御前で、この事柄について明瞭でなければなりません。わたしたちはどこへ行こうとも、まずその地方に教会が存在しているかどうかを見なければなりません。そこの教会が強いかどうか

かは重要ではありません。それは別の事柄です。そこの教会が霊的かどうかは重要ではありません。…もし一つの地方に地方教会があれば、わたしたちは別のものを設立してはなりません。わたしたちは、別の食卓を設立してパンをさくことを恐れなければなりません。これは恐ろしいことです。（「ウォッチマン・ニー全集第56巻、「開かれた門」誌／「現在の証し」誌、第24号」）

もしわたしがある都市にいるなら、唯一の地方召会としてそこに集まっている人たちを、どのように感じたとしても、彼らがわたしをどのように取り扱ったとしても、わたしには選択がありません。わたしは十字架の学課を学ばなければなりません。わたしは砕かれる学課、自己否定の学課を学ばなければなりません。一つの地方に唯一の召会がすでにある限り、その地方で別の召会を始めるとのような根拠も、どのような権利も、どのような立場もありません。わたしは規制され、制限されなければなりません。これが真の学課です。（「召会の実行的表現」 p.20）

諸召会が設立されたいくつかの地方において、ドン兄弟の同労者たちは聖徒たちを集めて召会から分離して集会をしました。別の事例では、すでに召会がすぐ近くに存在する地方で、一分裂の言い逃れとして街の範囲（制限）を用いて「諸召会」を設立しました。それから、聖徒たちの召会からを募集して（抜き出して）、彼らの集会に加わるようにしました。これらのどちらの実行も一の立場の真理とは正反対です。これらの集会は、孤立して分離した交わりを設立する目的でおこなわれている分裂です。

一つからだは、ひとりの神、一つの受肉、受肉におけるひとりのキリスト、一つの十字架、一つの復活、昇天におけるひとりのキリストから出てきます。もしわたしたちがこれを見たのであれば、あえてこのからだを分裂し、このからだの中で分裂を造り出すのでしょうか？ 絶対にありません。それにもかかわらず、今日、わたしたちと共にいた者が、あえて分裂を造り出したのです。一人の兄弟がある意見を異にする者に、わたしたちは分裂を容認することはできない、と言いました。アナハイムで分裂を造り出したこの意見を異にする者は、アナハイムから分裂を消し去り、取り除く、と言いました。わたしはこれを聞いた時、自らに言いました、「たとえその分裂を、火星にさえ移動させることができたとしても、やはり分裂があるでしょう」。分裂は分裂です。結局、その分裂はアナハイムから、召会がすでにあった近くの都市に移動したのです。この出来事は、意見を異にする者たちが、キリストのからだについて、いかに暗やみにあるかを見せています。単に白黒で教理を知ることは、あまり意味がありません。（「一つからだと一つ霊」 p.9）

ある事例において、ドン兄弟の同労者たちはそのような分裂を、民族的で文化的な不信を蒔くことによって助長させました。兄弟たちの間でのそのような疑いの種を蒔くことは、邪悪です（箴言 6:16、19）。分離した交わりの輪の設立のための基となる民族的、言語的、文化的または国家的な背景のどのような現れも、キリストの十字架上での死を通して創造された一人の新しい人としてのキリストのからだの性質にとっては、とても異質なものです（エペソ 2:15；コロサイ 3:10-11）。

ドン兄弟の働きが広められた場所において、召会と聖徒たちの立場は、彼のパーソン、彼の教え、彼の命令（指令）と彼らが一つであるかによって測られました。ドン兄弟と彼の同労者たちによれば、召会

と聖徒たちがドン・ユー・ランの命令（指令）を拒否することは、召会がその立場を失うこと、聖徒たちが彼または彼女が集会する立場を失うことに等しいことでした。導く人たちがいる召会があるところでは、ドン兄弟の働きと務めにこれ以上従わないと決め、ドン兄弟の同労者たちの間では、この支配権に対しての挑戦に対抗して、それらの召会の所に行って、リーダーシップを覆し、導く兄弟たちをドン兄弟に忠誠がある唯一の資格を持つ他の人たちと置き換えました。従って、ドン兄弟と彼の同労者たちは召会の立場の真理を取って変え、諸召会の地方の行政を破壊し、聖書的な標準を、ドン兄弟の個人的な務めと働きに忠実になることが、召会を認知する統治的な要因であると置き換えてしまいました。

例えば、ある場所の責任の兄弟たちが彼らの召会を、ドン兄弟の働きの領域の外にいる兄弟たちからの務めに開いた時、ドン兄弟と親密な同労者の三人が、彼の名前の中で行動し、「ドン兄弟は、召会の中で取った兄弟たちの行動を無効にする」と書き、ドン兄弟に従う人たちだけが、「召会の立場の上に堅く残る」と宣言しました。エクアドルとチリの両国において、ドン・ユー・ランの「命令」（指令）を離れた人たちは反逆的であるので召会の立場を失ったと教えられました。他の事例では、「使徒たちの交わり」を維持するただ一つだけの基を持つ召会が存在する地方で、新しい「召会」を設立したりしました。リビング・ストリーム・ミニストリーの出版物においてウォッチマン・ニー兄弟とウィットネス・リー兄弟によってわたしたちにもたらされた新約の務めに従う彼らの願いのゆえに、除名され、激しく迫害された聖徒たちの多くの事例があります。これらの実行は乱用であり分裂でありまた主の回復の中の諸召会の間で何の余地也没有ません。

結論

この手紙に書かれた事実は広範囲にわたる調査に基づいています。ドン・ユー・ランと彼の同労者たちの逸脱した教えを示した例証は彼らの語りかけと書物から引用されています。彼らの働きによって起こされた諸問題は文書としてまとめられました。さらなる情報は www.afaithfulwitness.org のウェブサイトをご覧ください。このことでご質問のある方、また他の警告の文書をご覧になりたい方もこのサイトを参照して下さい。

わたしたちは、この手紙の中に書かれたドン・ユー・ラン兄弟と彼の同労者たちの見解と行動は、ウォッチマン・ニー兄弟とウィットネス・リー兄弟によってわたしたちにもたらされた新約の務めを何一つ代表していないと、はっきり表明します。また 1920 年から今日に至るまで主の回復の中のリーダーシップの実行も代表していません。わたしたちは、主の回復の名の中でなされたすべての間違った教えと分裂の働きに同意しませんし、それらを罪定めます。

もしも責任の役割のある人が真理から逸脱するなら、彼がだれであろうと、たとえ人々が過去に彼から助けを得たとしても、彼に従うべきではありません。真理に対して絶対的になり、主の回復に忠実であるために、わたしたち全ては自分の個人的な感覚と関係を脇に置かなければなりません（マタイ 12:48-50、I ペテロ 1:22）。

過去にわたしたちがある人からどれだけ多くの助けを受けたとしても、もし彼がからだに対して罪を得る事を行うなら、わたしたちは真理（ローマ人への手紙第 16 章 17 節の真理を指しています）を実行しなければなりません。（「召会生活に騒動を引き起こすさまざまな問題」 英文 p. 152）

真理に絶対的であるとは、個人的な感情あるいは家族関係が、真理の中に立つことを許さないということの意味します。霊的な事柄において、真理は、人間的な関係が考慮されるやいなや損なわれてしまいます。（「ウオッチマン・ニー全集第 52 巻 主の働き人の性格」 p.132）

これがわたしたちの誠実な願いと祈りです、それは、わたしたちの救い主である思いやりのある（あわれみの）神を通して、ドン兄弟と彼の同労者たちが彼らの方向を変えますように。わたしたちは、彼らの分裂から真に離れるどの人たちとも交わりを回復するために、わたしたち自身を開いていると宣言します。

これがわたしたちの切なる願いです。それは、主の回復の聖徒たちと諸召会がさらなるどのようなダメージからも護られ、彼らの建造のために平安の中で保たれることです（使徒 9:31）。わたしたちはすべての聖徒たちに終わりまで祈りととりなしを続けて下さるようお願いいたします。ドン兄弟と彼の同労者たちによって推進された教え、出版物、実行に接触しに来る誰に対しても、わたしたちは、あなたが保護されるために、またからだは混乱、攻撃、分裂から護られるために、それらから逃れるように警告を与えます。神のエコノミーと正反対の教えが根を張り、成長するのを許すとき、必然的に分裂という結果になるので、それらから逃れるように警告を与えます。そのような教えと実行に従っている人たちへ、わたしたちはキリストの愛の中でそれらのことから向きを変えるようあなたがたに勧めます。

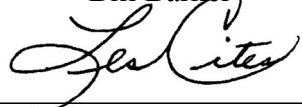
わたしたちは、平安の中であって、彼の回復において、主の継続した語りかけによって強められるよう聖徒たちを励まします。いまだかつてなかったほどに主の証しが輝き、彼の動きが全地に広がりますように。主がすべての聖徒と諸召会を真の一と一つ心（ヨハネ 17:11、21-23；エペソ 4:3-6、ローマ 15:5-6）の中で保護し、同じ事を思い（ピリピ 2:2）、同じ事を語り（I コリ 1:10）、キリストのからだを建造するための新約の唯一の働きを共に遂行していくことができますように（エペソ 4:12）。

主の回復の中の同労者を代表して：

UNITED STATES



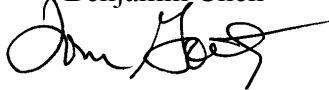
Bill Barker



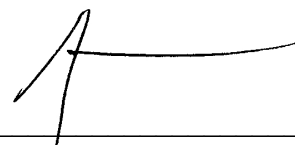
Les Cites



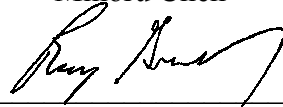
Benjamin Chen



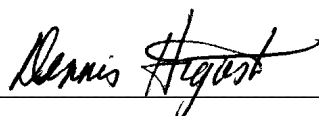
Tom Goetz



Minoru Chen



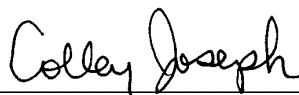
Ray Graver



Dennis Higashi



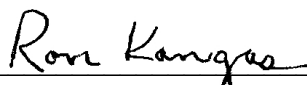
Abraham Ho



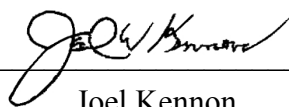
Colley Joseph



Gary Kaiser



Ron Kangas



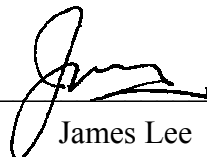
Joel Kennon



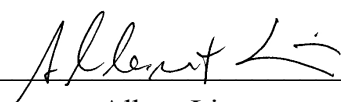
David Koo



Bill Lawson



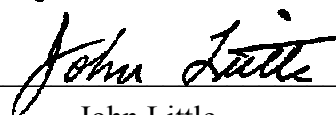
James Lee



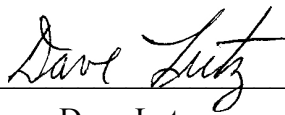
Albert Lim



Bob Little



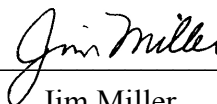
John Little



Dave Lutz



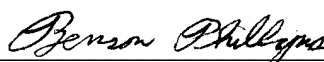
Ed Marks



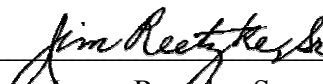
Jim Miller



Victor Molina



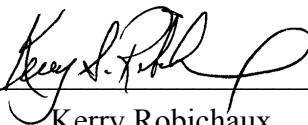
Benson Phillips



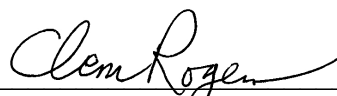
James Reetzke, Sr.



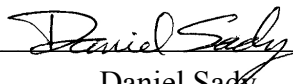
Sherman Robertson



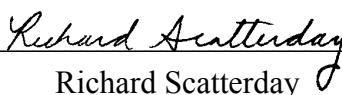
Kerry Robichaux



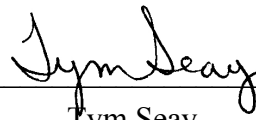
Clem Rogers



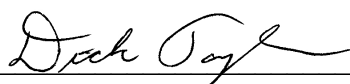
Daniel Sady



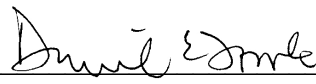
Richard Scatterday



Tym Seay



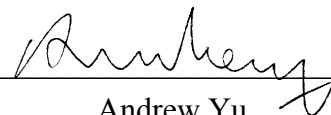
Dick Taylor



Dan Towle



Chris Wilde

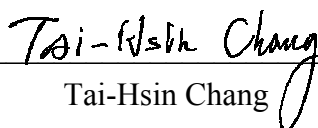


Andrew Yu

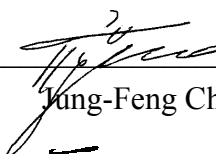
TAIWAN



Li-Hsin An



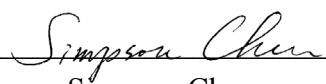
Tai-Hsin Chang



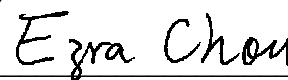
Yung-Feng Chen



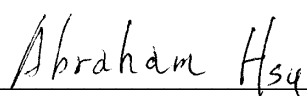
Peter Chen



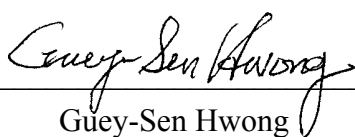
Simpson Chen



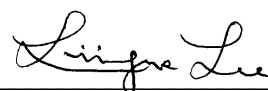
Ezra Chou



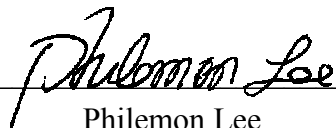
Abraham Hsu



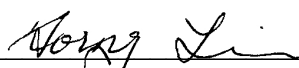
Guey-Sen Hwong



Livingstone Lee



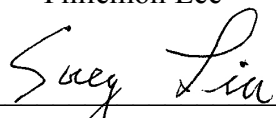
Philemon Lee



Hong Lin



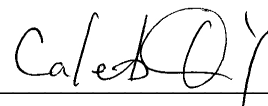
Newman Lin



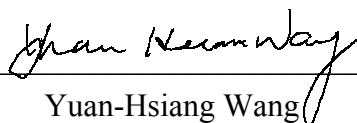
Suey Liu



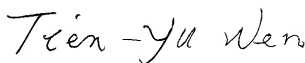
Titus Lin



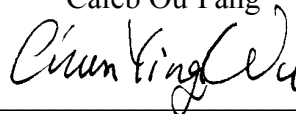
Caleb Ou Yang



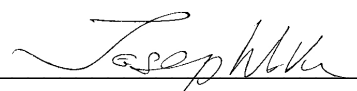
Yuan-Hsiang Wang



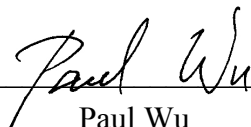
Tien-Yu Wen



Chun Ying Wu

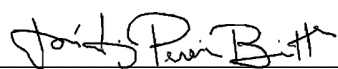


Joseph Wu



Paul Wu

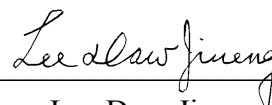
SOUTH AMERICA



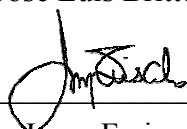
José Luis Brittes



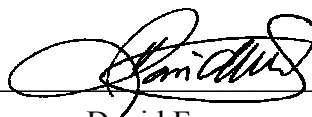
Aderson Damasceno



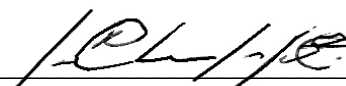
Lee Daw-Jiueng



Jorge Farias



David Franco



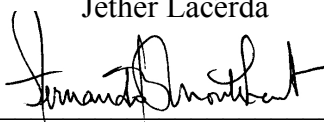
Jether Lacerda



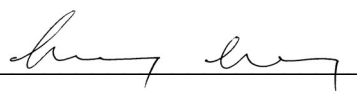
Pablo Lo



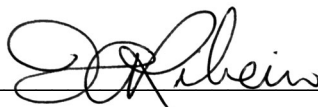
Julio Martinez



Fernando Monte-Serrat

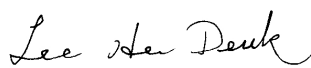


Laerte Salvador

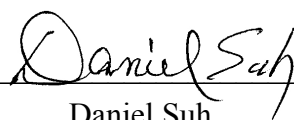


Francisco de Aquino Ribeiro

KOREA

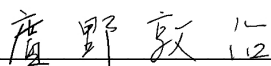


Hee Deuk Lee

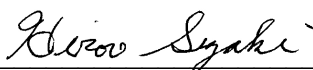


Daniel Suh

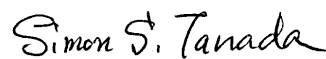
JAPAN



Atsuji Hirono



Hiroo Suzuki



Simon S. Tanada

HONG KONG



Ittai Cheng

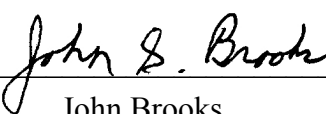


Daniel Hui

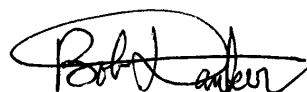
EUROPE



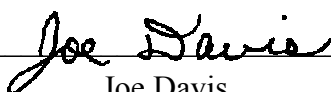
Jim Batten



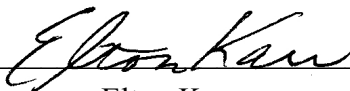
John Brooks



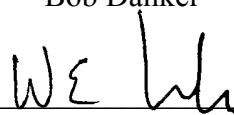
Bob Danker



Joe Davis



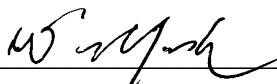
Elton Karr



Bill Lewellan

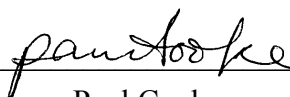


Mel Porter

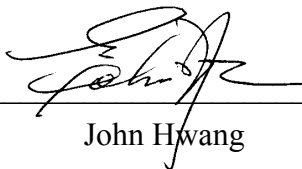


Bill Yueh

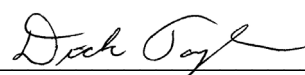
AFRICA



Paul Cooke

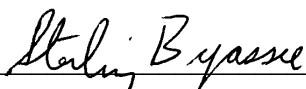


John Hwang

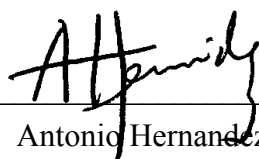


Dick Taylor

MEXICO



Sterling Byassee

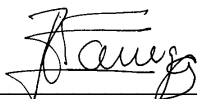


Antonio Hernandez

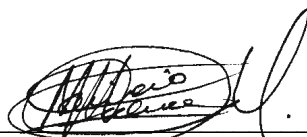


Paul Hon

CENTRAL AMERICA

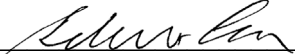


Jose Luis Alvarenga



Mauricio Midence

CANADA



Robert Lim



David Sisson

ISRAEL



Trawnegan Gall



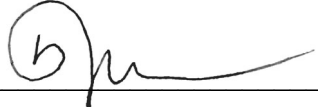
Jake Jacobson

INDIA



Jerusalem Sung

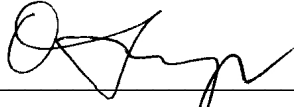
RUSSIA



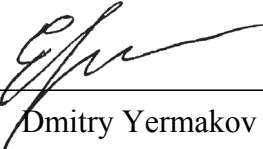
Leonid Brattsev



Dan Leslie



Oscar Tuktarov



Dmitry Yermakov

AUSTRALASIA



Ray MacNee



Richard Salmon